

ぜんそく

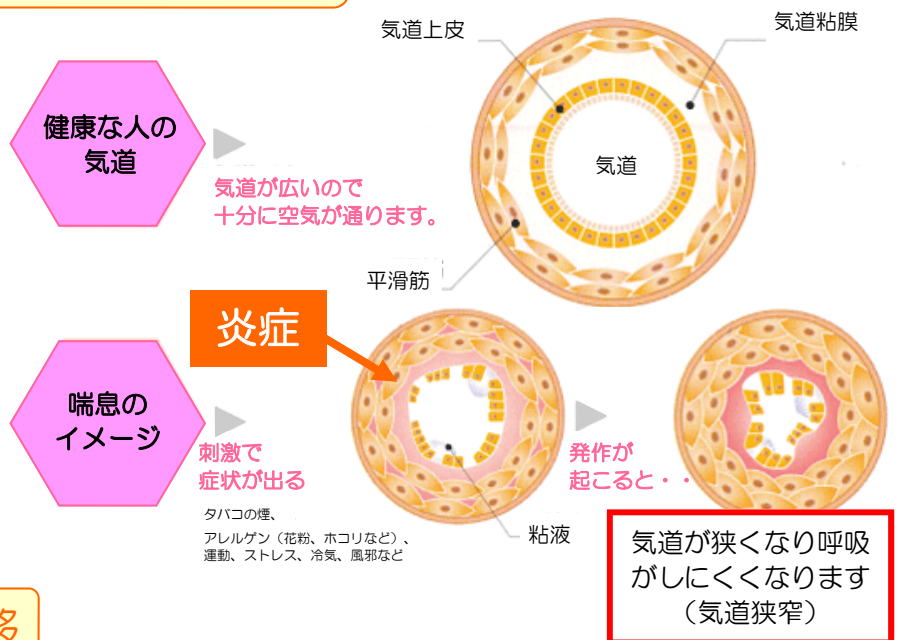
喘息とはどんな病気？



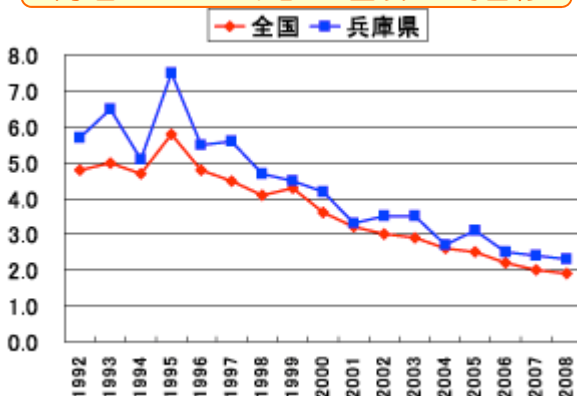
喘息とは、喘^{あえ}ぐように息をすることから付けられた病名です。明け方や夜中に症状の認められることが多く、ヒューヒューやゼーゼーといった笛の鳴るような呼吸音（喘^{ぜんめい}鳴）が特徴的で、激しい咳や息苦しさを伴う疾患です。

慢性の気道炎症が問題です！！！！

喘息は発作のときだけ気管支の収縮が起こる病気と考えられてきました。しかし研究が進み、気管支喘息は慢性的に（症状が見られないときでも）気管支に**炎症**が生じている疾患であることが分かってきました。



喘息による死亡者数の推移



炎症を抑える治療により喘息をコントロールできます。しかし、十分な治療を受けておられない喘息患者さんは、慢性の気道炎症によって徐々に気管支が弾力性を失い、症状が不安定になったり、上図のように絶えず気道狭窄を起こした状態になったりします。狭窄した気管支に粘度の高い痰が詰まる、あるいは高度な発作による「喘息による死」は今なお無くなってはいません。

一口メモ：**炎症**とは何らかの有害な刺激を受けた時に起こる防御反応の一つです。けがをすると傷の周りが赤く腫れるのは炎症の一例です。気管支喘息ではアレルギーなどにより気道に炎症があるので、治療としては「炎症」を抑えるのがとても重要です。

兵庫県喘息死ゼロ作戦実行委員会

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asthma/index.html>

喘息の治療法

1) 喘息発作の誘因となるものを避けましょう

(1) 抗原（アレルゲン：アレルギー症状を引き起こす原因物質）からの回避

風通しによる部屋の湿気除去や布団、絨毯などの掃除。花粉飛散の時期には花粉の吸入にも注意を。

(2) ウイルス感染防止

風邪やインフルエンザなどのウイルス感染は、喘息の悪化を誘発します。手洗いやうがいの励行を。

(3) タバコ

禁煙しましょう。禁煙が難しい方は、専門病院の禁煙外来なども利用してください。

2) 薬物によるコントロール

(1) 副腎皮質ステロイド

現在の喘息治療においてもっと効果的な薬です。喘息治療の基本となるのは吸入薬です。喘息死を減少させることが証明されています。



(2) 長時間作用型気管支拡張薬

症状コントロールに有用ですが、

これのみの使用は禁じられています。



(3) (1)と(2)の配合薬

2種類の吸入薬を同時に吸入できますので、吸入手技の手間が省けます。



(4) ロイコトリエン拮抗薬

気管支拡張作用と気道炎症抑制作用を有する薬です。アレルギー性鼻炎合併喘息や運動誘発性喘息、アスピリン喘息に有効な内服薬です。

(5) 徐放性テオフィリン

古くから用いられている薬剤です。これのみの長期使用はやめましょう。

3) 発作の治療

(1) 短時間作用型気管支拡張薬

発作時に使用します。**これのみの長期使用はやめましょう。**



(2) 経口（注射用）ステロイド薬

重症発作時の治療に用います。十分量を用いて早期に症状改善を行い、短期間のみ使用するのが原則です。

兵庫県喘息死ゼロ作戦実行委員会ではホームページを作成しております。是非そちらもご覧下さい。

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asthma/index.html>

